

意見・行事報告・活動紹介…etc.

読者のページ

ボーイスカウトと私

— 菊章を取得して —

奈良・生駒第6団BS 久保

平成14年12月8日、菊章面接を受け、無事認証していただきました。奈良県初の女子の菊スカウトだと聞き、とても光榮に思います。面接で「順調にここまで来ましたね」と言われ、少し今までのボーイ歴を振り返ってみようと思えます。

菊章を取得できたと言っても、すごく努力したとか、人並みはずれた才能を持っていたという事はありません。私は小六の頃から山の中を探検したり、虫を捜したり、野草をつんだりする外遊びが大好きで、カブのうさぎに入隊してからの野外活動は、私にぴったりでした。ボーイに上進してからは、班集會が楽しみになりました。班長の家でわいわい騒ぎ、それでもいろいろなおぼえと班長がサインしてくれるというのが新鮮で、友だちよりもたくさんサインをもらおうと、必死でロープや手旗をおぼえました。

上進3年目に女子スカウト6名で女子班が誕生し、私は班長になりました。班集會を楽しくし、班をまとめようと、班員の誕生日会を企画したり、FAXのやりとりをしたりとコミュニケーションを常にとるようにし、班集會はいつも盛り上がっていました。

私は皆勤で隊集會に参加していましたが、1級を取得するためには、参加するだけではクリアできない項目が立ち足はだかっていました。初めて自分で調べてレポートを出すようになりました。そうしてもらったサインはとても嬉しくて、リダが内容より努力を認めてくれたことを感謝しています。

班長2年目は大きな年でした。ボーイ活動以外に9年間続いているバレエで主役をいただき、週4回京都までレッスンに通う日々の

中で、班長會議、GB訓練、班集會、隊集會があり、とても忙しい毎日でした。この経験は、いかに自分の役割を果たして他の人に迷惑をかけないかを考え、自分のスケジュールを段取りするということの練習になりました。そんなとき、13NJの参加隊に選ばれ、しかも班長に任命されたのです。新しい班の仲間(私以外7名の男子)が、私を班長と認めてくれるかが大きな不安でしたが、明るく楽しい班で、私にとってかけがえのない良き仲間となり、班長は班員に支えられていることを実感しました。彼らと過ごした4か月は、今でも私の中で輝いています。

13NJは私にとって一生忘れられない大会となりました。8月3日の開會宣言をしたことです。指名されてからの2週間は、驚き、不安、喜び、憂うつ等が入り混じった日々でしたが、何とかなる、この幸運をラッキー!!と喜んでしまおうという思いで、本番を迎え、晴々とした気持ちで舞台上に上がりました。宣言を終えたとき、この機会を与えてくださった方々、自分のことのようにハラハラして見守ってくれた方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。ボーイスカウトであることに幸せを感じ、同時に自分がこれから何をしたいかがはっきり見えてきました。

今までの活動を思い返してみると、失敗もたくさんありました。例えば読図の弱さ。机の上ではパッチリマスターしているのに、歩いている道と地図上での道がずれ、何度迷って班や隊に迷惑をかけたことか。また1級キャンプでは、初めて食料や炊具、テント等がかついで歩いたのですが、6キロの道のりはとても長く感じられ、1人で過ごす夜は暗闇がこわくてなかなか寝られませんでした。

いろいろなことがあったけれど、キーポイントは「快活」と「勇敢」だったかなと思います。失敗しても落ち込まない、班も暗くしない、何か楽しいことを見つけて盛り上がる。すると次に頑張る力がわいてくるのです。ボーイスカウトはテレビゲームのようなものではありません。何回もやり直してだんだん上手になります。最初からマニュアルがあって高得点が出るゲームはすぐ飽きてやっなくなるけれど、やり方がわからないゲームほど、失敗しても「もう1回」と思っているいろいろな方法を試み、成功したことがすごく嬉しい。ボーイスカウトにマニュアルはありません。失敗してもまた挑戦するというのが、私が思っている「勇敢」です。そして快活と勇敢がまわりの人に伝わって、班の力が倍増するのです。